

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902140		
法人名	有限会社 本間サービス		
事業所名	グループホーム こもれ陽		
所在地	北海道旭川市春光台3条9丁目2-18		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間の制約に縛られず、個人の意思を最大限に汲んだ生活パターンを構築している。職員一人一人が利用者個人への対応を考えながら、全体としてまとまった対応になっている。日中は寄り添う介護を基本として利用者の傍につくようにし、天気の良い日には外への散歩、ドライブ更には温泉への1泊旅行や日帰り旅行などを行い、可能な限り家庭の延長線を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902140&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年3月に開設した当事業所では、その人らしさや穏やかで安らぎのある暮らしを目指し、信頼関係に基づいた利用者との関わりを大切にしながら、日々のケアサービスに努めている。本年9月に隣接して、グループハウスを開設している。家族会や地域住民を含めた行事などで利用者が地域交流の機会を多く持っている。心身の活性化や体力維持につながるよう、散歩を多く取り入れたり、日々の買い物など、希望に沿った外出を行っている。また、福寿草観賞やスキー場見物、季節を肌で感じるドライブなどの外出支援もしている。天窓から採光を取り入れた明るいリビングには、団欒しやすいよう座卓を配置しており、各居室等には空気調整のファンを常に稼働させ、快適な空間となるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと歩む、日々の暮らし」と理念に謳い、職員には会議の場などで周知を図っている。散歩の途中で運営推進委員をしてくださっているお宅へ伺ったり、地域の祭りに参加したりと交流を大切にしている。	地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、「笑顔で挨拶、地域の人たちと歩む、日々の暮らし」との方針を加え、積極的な地域交流と地域生活の継続支援に取り組んでいる。また、管理者は理念の共有及び実践を重要視しており、唱和等により職員の意識化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加し交流を深めている。また、今年には神輿等も施設まで来ていただき、若者と利用者が一緒に写真を撮ったりして、交流を深めた。また、地域への散歩は日常的に行い地域の人と話をしたりして交流を深めている。	運営者は、利用者が地域で安心して暮らし続けるため地域との連携を大切にしている。事業所の納涼祭や収穫祭などの行事に地域住民の参加やボランティアを受け入れている。また、日常的な散歩時での挨拶やおすそ分けなどの近所付き合いを利用者と一緒を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパーの講座を持つ高校への講義、認知症を抱える家族会主催の会議に出席し講義を行っている。また、手話通訳のできる職員が働いている関係で地域に出てお手伝いをさせてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は特に隣にグループハウスを新築した関係で地域の方々にお世話になった。会議ではその取り組みについて報告を行っている。	運営推進会議は町内会、家族会、職員などが参加し、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の運営状況や敷地内に開設するグループハウスの取り組み、防災、外部評価結果などを議題とし、地域や家族からの意見等をサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が民生委員をしている関係で市とは特に協力関係を持っている。また、施設内での事故で報告書を提出することでお世話になっている。	市の介護保険課や地域包括支援センターに事業所の実情や課題について報告する中、課題解決に向けた協議を行うなど情報の共有化を図っている。また、市主催などの研修会にも積極的に参加し、同業者間の交流を促進している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は職員が夜勤体制に入る時間以外は開錠している。身体拘束は行ってないと確信している。	契約書及び重要事項説明書に身体拘束は行わないことを明記し、利用開始時に利用者、家族に説明している。また、職員は身体拘束に関する研修にも参加し、管理者はじめ全職員が十分理解し、身体拘束をしないケアに努めている。日中玄関は施錠しておらず、利用者が花壇や菜園へ自由に入出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は0である。報告書等にも0と記載してきているし、日々ミーティングの中でも話し合わせ確認合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人となった経験をもっているため、職員にも機会あるごとに話し、外部研修にも参加するよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約については、説明をしている。特に金銭関係は納得していただけるよう話している。また、いつでもわからないことは相談してくださいとお話している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見要望があったときには、翌内容を聞き、対応している。玄関には意見箱と投函用の紙、筆記具を設置し、施設あるいは職員に意見などがあれば書いていただけるようにしている。	日ごろより、家族とはコミュニケーションを行うことで信頼関係を築き、気軽に話しやすい雰囲気を大切にしている。利用者からの意見についても受け止め、問題の発生要因を探るとともに、日々のケアサービスや事業所運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見については時間をかけて話をするよう心がけている。また、全体会議の時にはフリーで話せる時間を設け、その中で意見が出れば運営に反映させている。	代表者は働きやすい就労環境に配慮し、意見交換や議論を重要視している。全体ミーティングにおいても職員からの意見や提案を吸い上げて、全体でまとめながら日々のケアや運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境を作るべく努力しているが、チームワークの大切さやお互いがお互いを思いあう心を持つことが大切であると職員へは伝えている。また、寸志だがボーナス以外にも職員へ渡している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修を通して処遇の向上に繋げているが、日々の仕事の中でも良い方法があればお互い出し合って向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間で一泊研修を行っている。仕事の流れや利用者への接遇など再確認が出来る場としてよい成果が出ているため今後も継続していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添う介護を基本としているが、利用者の話を傾聴することが大切だと職員へは話している。話す率は職員1に対して利用者が9くらいの気持ちであることを日々話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に聞くことをモットーに話を進め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に聞くことから始まって、適切なアドバイスをすることで、本人や家族の言いたいことが見えてくると思っている。どんなときでも相手の話に耳を傾けることを重視している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日3食を同じテーブルで食べ、一緒に生活していることへの意識付けを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地方のグループホーム職員との交流や施設内での研修、外部研修を受けることで働きながら学ぶ姿勢を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地方のグループホーム職員と交換交流を行っている。2泊研修としそれぞれの施設について特色を学び、良いところを持ち帰り、仕事の中に取り入れている。	利用開始前まで居住していた場所や本人の思い出のある場所にドライブに行くなどしている。知人の来訪時にはゆっくりと過ごしてもらい、馴染みの人や場所との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コンサート鑑賞や食事を一緒にしたり、ゲームで汗を流すことでストレス解消に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、施設の運営にご協力いただける方もいらっしゃる、退居先での様子などを聞き、必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にも謳ってあるようにその人らしい生活を送れるよう援助している。困難な場合も本人を中心に考えるようにしている。	一日記録表や介護員日誌、ケアチェック表を活用し、言動及び気づきなどを記録している。それらをもとに意向の把握に努め、職員全員が共有、充実に努めながら、本人本位の暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との話し合いで聞く姿勢を作り家族の伝えたいことや困っていることは何かを把握できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上の介助はせず、残存能力を生かしたケアを心がけている。拭き掃除や館内の植木の管理、食前準備片付け等。個人に出来ることをしてもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中からその人に合ったケアのあり方について話し合っている。話し合いの結果として出た良いアイデアは計画に反映し処遇改善に繋げている。	一人ひとりがその人らしい生活を送るため、利用者や家族の希望を引き出すよう心がけている。利用者や家族の意向をもとに、職員全員が計画作成に関わり、日ごろのケアの中での気づきや意見を話し合っている。家族の理解を得ながら、介護支援専門員を中心に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は出来るだけ詳細に書くように心がけ、全ての職員が目を通し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者から発信される様々なニーズに対応したり、家族に対しても柔軟な支援をするようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園の催物に出かけたり、ドライブを楽しんだり、自然を満喫したり温泉へ入浴に出かけたりして、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医以外の病院へも必要があれば通院し、適切な医療を受けられるようにしている。	利用者の要望に応じて利用開始前のかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関による週1回の看護師により健康管理を行い、急変時にも対応できる体制も確立している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、日々の出来事で医療的に配慮しなくてはならないことについて、メモや口頭で聞くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が1人ずつなど交代で面会し、退院の日を迎えられるようにしている。病院側とは可能な限り早く帰られるようおはなしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状等の変化については、その都度家族に連絡するようにし、家族が現状を把握し、情報を共有できるよう心がけている。終末期に向けてのアプローチは密に連絡をとること、その都度ご家族にはご足労願っている。	家族の希望により、重度化した場合や終末期の利用者を支えるための方針を示している。事業所ができるケアについて家族等へ契約時に説明しており、利用者、家族の希望を確認しながら情報を共有している。	今後、重度化や終末期の対応に向けて職員教育の充実を図り、利用者や家族の意向に沿う支援体制につなげる取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に関しては施設長、提携病院への連絡体制が構築されている。事故についても同様に定期で学習会を開催、事故防止、事故発生時の応急処置を身に付けることに努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は消防署員の協力を得て訓練を行っている。また推進委員会にも出席をお願いし、対策の協議を行っている。消防訓練と同時に災害訓練も行っている。	利用者の安全確保や災害対策のため、防火管理規定を策定し、夜間想定も含め年2回の訓練を行っている。運営推進会議で協議しながら、委員や地域住民に対する支援の働きかけも行っており、避難場所の確保と周知もできている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念「その人らしさや誇りを持てる暮らし」を目指している。日々の生活の中でも言葉使いや接遇に関しては話し合っている。	利用者の人格を尊重し、その人らしさを支える「誇りを持てる暮らし」を理念としており、声かけや排泄時の対応等の際に、プライバシーや誇りを損ねることのないよう職員一丸となって取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活を送ってもらえるよう心がけている。利用者に決定してもらえるような声かけをしようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に歌ってあるように、個人の生活ペースで過ごしていただいている。食事の時間の個別化や外出の希望への対応など随時出来る範囲で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々同じものを着るのではなく、着替えをするよう心がけている。似合っていますの声かけも忘れずにし、喜んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にお手伝いを願うことは、もやしのひげ取り、ゴマすり、味付け等。配膳下膳の手伝いやテーブル拭きなどもしていただいただけ苦なくやっていた。	職員は利用者の能力に応じて味付けなどを一緒に行い、食事が一日の大切な活動となるようにしている。また、菜園で育てた10種類の野菜を献立に組み入れたり、昼食を前庭で食べる機会を持ち、喜びや楽しみとなる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量は全員分を毎食チェックしている。夏場は水分多めに、体調を見ながら食事の形態を変えるなど配慮している。塩分は少な目に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食行い、往診の歯科医師衛生士の指導も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを減らすことを検討し、なるべくトイレでの排泄を実践している。日中のトイレ誘導、夜間はポータブルの使用。どうしてもできない方のみ夜間オムツなど。	できる限り自立して排泄できるよう、排泄チェック表等から排泄状況を把握し、トイレでの排泄を促している。また、かかりつけ医と連絡を取りながら、内服薬等の調整も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため運動に心がけ、館内を日中歩くようにしたり、天気の良い日には外への散歩も積極的に行っている。また、1日の水分摂取量にも気を配っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回。その他必要時はシャワー浴を行っている。	利用者のその時々希望を大切に、楽しくゆったりと入浴できるよう配慮し、状況に合わせてシャワー浴の支援もしている。入浴補助用具も活用し、安全で快適な入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息は1時間から1時間30分ほどとっている。夕方は消灯時まで(21:00)自由に過ごしていただいている。番組によっては時間の延長もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、正職員が管理している。Drの指示の元、行っている。薬の副作用や用法・用量も理解している。症状の変化はすばやく気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のリハビリ体操、外へ散歩、ドライブ、DVDでの映画鑑賞、塗り絵、契り絵など。その他たくさん出る洗濯物の畳みなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設の重点目標ともなっているので、戸外へはよく出るようにしている。外泊もときどきあり、自宅その他へ戻られ気分転換になっている様子。	散歩を多く取り入れたり、日用品の買い物など、日々それぞれの希望に沿って外出を行っている。福寿草観賞やスキー場見物、季節を肌で感じるドライブや日帰り入浴などの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と買い物に出かけている入居者もいるが、自分で欲しいものを買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用する入居者は現在2名である。手紙についてはほとんど無く、正月の年賀状が3～4名程度である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな施設であるが、雰囲気は良いと言われている。利用者に生活しやすい、居心地のよい家庭的な空間作りを目指している。	天窓から採光を取り入れた明るいリビングには、テーブルやソファ、座卓などを利用者が団欒しやすいよう工夫して配置している。また、観葉植物や書画、絵画などで落ち着いた家庭的な雰囲気となっている。各居室は、空気調整のファンを稼働させながら快適な空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれたり、気の合う利用者同士、互いの部屋でお話をされたりしている。テレビ前に集まるときも職員が話題を居る方々に振り、コミュニケーションを図れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物は遠慮していただいているが、使い慣れた家具や仏壇など居室スペースに入る物は持ち込んでいただいても良いことを家族へもお話している。	それぞれの生活スタイルに合わせて仏壇などを持ち込んでおり、安心できる生活環境を整えている。また、利用者手づくりの作品や写真などを思い思いに飾り付けし、快適に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子が通れるスペースや手すり、居間には大きめのソファを置いている。建物内の移動はご本人の意思を尊重し、居室へ行ったり、フロアへ出たりと自由で、職員は常に見守りができる場所に居る。		